

千葉市新港の食品コンビナートに広大な敷地を有し、輸入される小麦などの穀物をサイロ(貯蔵庫)で管理し、食品会社に供給するのが主な業務の千葉共同サイロ株式会社。

全国に数あるサイロの中で、小麦の取り扱いではトップを誇ります。2年前に社長に就任し、規制緩和に対応する意識改革を成し遂げた内藤常男社長に、会社経営などについて伺います。

目指すは穀物の取扱量年間100万トン

「日本一のハブ港」が目標

千葉共同サイロ株式会社 代表取締役社長

内藤 常男

ないとう・つねお

1949(昭和24)年生まれ。一橋大学 社会学部卒業。72年に住友商事株式会社入社。79年にマニラ支店農水産を担当。2000年に農水産本部 嗜好品事業部長を、2002年には理事に就任。同時に物流保険事業本部長 兼 物流企画営業部長も務める。2004年に執行役員に就任。2006年より住商グローバル・ロジスティクス㈱の代表取締役社長に就任。2009年より千葉共同サイロ株式会社 代表取締役に就任。

所在地:千葉市美浜区新港16番地

事業内容:サイロ事業、港湾運送事業、倉庫業、貨物利用運送事業、3PL物流事業



物流会社の売り物は「サービス」 お客さまのニーズをつかみ、きめ細かなサービスを

弊社は、住友商事、日清製粉、千葉製粉、キッコーマンの4社が出資する合弁会社で、小麦の保管量としては、日本最大のサイロ会社です。新港の食品コンビナートに立地している日清製粉、千葉製粉などに小麦を供給しています。

小麦は、日本政府がアメリカやカナダなどの海外から買い付け、製粉メーカーに販売しています。この「政府が買い付け・管理する」という仕組みは変わりませんが、昨年10月に規制の

一部が緩和され、港へ輸送し保管する仕組みが、農水省の出先機関である農政事務所の管理から、商社や私たちサイロ会社に委ねられるようになりました。

これまでは、港に着く船の大きさや入港時期を政府が決めていましたので、弊社は基本的に政府の指示に従っていればよかったですと言えます。これからは、取引先の要請を踏まえ、関係者の調整を行うという、より踏み込んだ役割を担うこととなります。弊社の機能をより発揮できる好機到来ともいえます。これらの変化により、弊社がサプライチェーン全体の効率化に大きく貢献できると確信しています。

自分たちで考えて行動できる 社員へ意識改革

私は、2年前に代表取締役に就任しましたが、ほぼ同時期に、こうした規制緩和があり、改革を迫られました。

今までは、役員から一般社員まで「言われたことを指示通りに行う」という仕事の仕方でしたが、今後は自分たちで考えなければなりません。そこで、代表取締役としての初仕事は、新しい経営理念を掲げ、社員の意識改革をすることでした。

第一に掲げたのは「個人の尊重、自由闊達、自己成長」です。代表取締役が「社員一人ひとりを尊重し、いつも大切に見守っている」という熱意



常務取締役の島津和義さんと

を持って接すれば、社員も“やる気”が高まります。同時に「自由闊達」な気持ちも生まれます。社員が自分の夢や豊かさを実現する為に、社員それぞれが「自己成長」する機会は全員に与えることができます。この3つは重要な基本理念になりました。

第二に、「競争力のある高品質な物流サービスの提供」です。私たち物流会社の売り物は「サービス」です。お客様が「3時に届けてほしい」と言えば、3時に届ける。お客様のニーズに対応した、きめ細かなサービスができれば、結果的にお客様の製造コストが下がり、お客様の業務に貢献できると考えています。

最も重視する「挨拶」には…

弊社の行動方針には「挨拶励行」を盛り込みました。これは、私が大学時代に剣道の指導を受けた尊敬する恩師で、戦前・戦後を通して剣道界では「昭和の武蔵」とよばれた師範、中倉清先生の教えです。

内藤さん「Q&A」

Q1 1日の平均的なスケジュールは？

午前5時半起床。剣道の素振り、仕事を持つ多忙な妻をサポートし、食事の支度の手伝い、洗濯などを行い通勤。東京・調布から千葉まで電車通勤。9時に出社。仕事は午後5時半まで。退社後は都内の剣道場で稽古。午後10時ごろ帰宅。

Q2 よく読む新聞&雑誌は？

新聞は日経。本は、多彩なジャンルが好きですが、今は三島由紀夫など純文学作品が多い。

Q3 仕事以外でハマっていることは？

一番は、剣道。暇をみては稽古、大学(一橋大)のOB戦にも参戦する。このほか、中国語の勉強。絵画(3年くらいデッサン教室に通っている)。

Q4 座右の銘(好きな言葉)は？

“気”を大事に。

Q5 とっておきのストレス解消法は？

剣道(七段)。

Q6 「やる気の源」をひと言でいうと？

自分が明るく元気であること。いつも社員を喜ばせようと接し、社員がそれに応えてよい方向に変わってくれたとき。



本年5月に導入した内航船積み込み機能を備えた荷役機械で100万トンを目指す

「あとのことは一緒に考えていこう。 何かあっても私は絶対に逃げない」と社員を説得



30代のある時、先生から「剣道で強くなりたいのなら、まずは挨拶。嫌なことがあっても、苦手な上司にも、挨拶を忘れるな」と言葉をいただいたのです。挨拶と剣道、どういう繋がりがあるのか分かりませんでしたが、先生に言われた通りに行っていました。

きちんと挨拶をする習慣が身につくと、気持ちが落ち着き、嫌なことも気にならなくなりました。思い返すと、先生は「平常心を持って。感情的にならずに平穏な気持ちでいれば、よい方向に向かう」と教えてくださったのでしょうか。ですから、行動方針の中で「挨拶励行」を最も重視し、社員・役員と一緒に実践しています。

仕事に積極的な社員へ成長

弊社には5人の女性社員がおり、うち3人が総合職です。彼女たちは、も

ともと事務職として入社してきましたが、多くのキャリアを積んできたのでステップアップのためにも総合職への職掌転換を勧めました。その方が会社のためにも、女性社員たちのためにもなると考えたからです。

最初、彼女たちには戸惑いがありました。「総合職というのは仕事の範囲は広く、忙しくなるが、将来の管理職候補だ。」と伝えましたが、うまく理

解されない面がありました。話し合いを重ね、最後は「悩んだらあとのことは一緒に考えていこう。何かあっても私は絶対に逃げない」といって説得すると、全員が決心を固めてくれました。

このような改革を進めた結果、社員は男性も女性も仕事に積極的になり、外部から講師を招いて行う研修会やセミナーなども自ら企画し運営するように成長しました。

“情熱”を持ち大きな目標へ

東日本大震災では、東北の港は大きな被害を受け、家畜用飼料のサイロがある茨城の鹿島港も同様でした。一時的に貯蔵できるサイロがなくなったため、震災直後は東北方面への船が千葉港に集中したので対応に追われました。

その頃、県内は計画停電が実施され、

工場などでは生産ラインが影響を受けていました。しかし弊社では、住友商事グループのサミット美浜パワー(株)から電力供給を受け、被災地向けの船の受け入れもフル回転で対応しました。

現状、国内のサイロスペースは全国的には均衡状態ですが、国内の穀物消費量は、少子高齢化が進む中、伸び悩んでいます。そのような環境下、弊社には「日本一のハブ港(海運の拠点となる国際的な港)」という大きな目標があり、目指すは穀物取扱量年間100万トンです。

弊社は今年5月「内航船積み込み設備」を新たに設置しました。この設備は、正確に計量した穀物を内航船に積み込める機能を有し、千葉港を中心とする穀物消費だけでなく、他港へ回送することで、広い範囲をカバーする穀物拠点となることを狙っています。

「内航船積み込み設備」を最大限活用し、100万トン達成に向け、役員・社員が一丸となって努力しているところです。これからも私のモットーである“情熱”を持ち、目標を目指していきたいです。



ユニホームに付けられたワッペンには、「CHALLENGE 100万t 日本一のハブ港」。役員・社員が一丸となって取り組む